

東京白楊だより

第22号
平成11.9.1
(1999年)



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校
函館中部高等学校

ホームページアドレス <http://www2.hotweb.or.jp/hakuyou/>

五稜郭

幕府が北辺防備のために7年がかりで築設した、日本最後の内戦「箱館戦争」の舞台ともなった日本最初の洋式城郭。星型であるところから五稜郭と呼ばれる。設計は蘭学者の武田斐三郎。

5月のゴールデンウィークに満開となる1600本の桜は、まさに花のアーチとなり、タワーからの全景は必見の価値がある。

毎年1月15日から2月14日までの一ヶ月間、雪に覆われた冬の五稜郭の堀がイルミネーションで飾られ、五稜星の夢が幻想的に浮かび上がる。

箱館五稜郭祭は箱館戦争をモチーフに、当時を偲ばせる衣装をまとった華やかな維新行列をハイライトとする祭り。5月中旬に繰り広げられる。又、7月～8月には、函館野外劇が市民のボランティアで行われ、堀を利用したスケールの大きい光と音の一大イベントが夏の夜を華麗に彩る行事がある。

共に歩こう



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

二上 達也

52期(昭和25年卒)

白楊ヶ丘同窓会がやってきた。年一度のことであるから、ロマンチックな気分です申し上げれば織女と牽牛の出会いの機会と言えぬこともない。

もっとも七月はとうに過ぎ秋深まるの折りであつてみれば、若い人達はともかく、高齢に達しつつある我々世代は少々寂寥の思いが漂うのである。

とにかくノストラダムスの予言は何事もなく、話題作りに終わったのではあつたがどうも怪しげな事件が続いている。

例えばインターネットを使った騒動の如きは近代ならではのことであろう。

さて私が東京に出て五十年、本会に直接関与するようになって十余年か、特に何かを成した覚えはない。大勢の方々のお力添えと協力によって歩いてきた。

人生無駄な年月はない。本会もしかり今さらに積み重ねてきたもの大きさを知る。

函館中部高の続くかぎり我々も共に歩きたいものだ。

文武両道健在なり

函館中部高等学校長

内田 政明



感じる場面もありました。そして、全ての方々に共通することは、函館中に学んだことの幸せであり、母校に対する誇りであり、世代を越えた連帯感であり、後輩への熱き十ルであります。これらを一言で表す言葉が『伝統』という言葉なのであります。

今年四月に藤原忠前校長の後任として、札幌白陵高校から縁あって本校に参りました。着任に際して多くの方々に挨拶を申し上げましたが、皆様の本校に対する大きな期待の言葉の数々に接し、その期待にこたへるべく努力して参る所存でありますので、よろしくお願い致します。

平成元年から二年間、渡島教育局高校指導班に勤務し、本校も数回訪問させて頂いたのですが、当時の校舎は改築され、また、教職員も大幅に交替するなど、様子は一変しており、十年の時間の経過を実感しております。

長い歴史と伝統に支えられた函館中部高校を理解し、いま本校に何が必要かを模索しつつ、多くの方々のお話を聞き、一〇〇周年記念誌を編み、同窓会支部により目を通すなどして参りました。卒業生の皆様が広く各界で活躍の様子を知り、そのスケールの大きさに驚くとともに、在学中のエピソードの中で、出身校は異なっても、共に生きた時代背景の共通点に懐かしさを

され、昨年度全道高P連から表彰を受け、更に今年度は全国高P連の表彰を受けることになっております。

文武両道を目指す本校では、部活動加入率は八十八%に達し、進路目標達成への努力と併せて、体育、文化両面で活発な部活動が展開されております。苦勞すること、汗を流すことを好まない風潮の中で、これは驚異的な数字です。七月上旬現在で、全道大会出場は卓球、野球、陸上、水泳、弓道、バスケット、男子、硬式テニス、男子、ハンドボール、女子、及び文化系では将棋、放送の十一部あり、放送は全国へも行きます。この頑張りや勢いは、必ずや進路実績へもつながるものと確信し、またそうしなければなりません。

先に述べたとおり、子供の実態は多様化の一途をたどり、その対応で学校教育は様々な方法・内容の工夫が求められておりますが、また、教育そのものに対する観方や考え方も様々なものがあります。それがどうであれ、本校の担う使命は明確であり、それは同窓生や父母の皆様が期待するものと異なるはずはありません。

本校に学ぶ子供達に、何をしてあげることが最もよいのかを、全教職員が知恵を一つにして取り組んで参ります。今後とも同窓会の立場で、本校に對しまして変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

我が青春ポプラと共に

旧体育館でのバスケットボール

昭和21年度主将 松木 養三(48期)

練習コートは旧校舎の雨天体操場で天井が低く、高いシュートは梁にぶつかることがしばしばあった。床は波を打っており、その上床材の表面がささくれていたり、釘の頭が浮いていたりで思わぬ怪我をしたこともあった。照明は極端に悪く、日没からの練習には苦勞が絶えなかった。時折、新川小学校などの体育館を借用して練習したが、何と立派な体育館なのかと思つたものである。練習コートの貧弱なこともさることながら、用具の不足には悩まされた。一番困つたのはバスケットシューズが手に入らないことであつた。普通の運動靴を手でできれば上等で、練習のときは地下足袋を履いている部員も多かつたし、裸足で頑張つていた部員もいた。ボールも歪なのはまだ良の部でツギハギだらけのボールを大切に磨いたものだ。現在の若い人達には想像も出来ない貧しい環境下での部活であつた。

若さとスポーツに賭ける情熱は誰にも負けないものがあり、またバスケットが好きで連中の集まりでもあり、とに角一生懸命練習に励んだ。この結果、一年後の昭和二十一年九月、全道大会で優勝、全国大会(国体)の出場権を獲得した。昭和六年函中籠球部創立以来の悲願であつた全道制覇を果たし、部員一同勝利の感激に酔つたことを今でも鮮明に想い出すことが出来る。



白楊ヶ丘同窓会東京支部 第22回親睦大会

65期(昭和38年卒) 菅原 大作
副支部長



“心のオアシス東京支部を活力ある集いに”をテーマに、白楊ヶ丘同窓会東京支部の平成10年度「第22回親睦大会」が、10月24日(土)午後1時より、東京・千代田区内幸町の「日本プレスセンターホール」で、来賓及び同窓生およそ160人が参加して行われた。



学技術者の逸話を日記風にまとめた『未知の扉を開いた先駆者たち』と、野生動物の行動を追跡した『野生動物からのメッセージ』(いずれも東海大学出版会発行)がある。相馬氏は、「私の専門は電子工学。鶴や亀などの動物は専門外しかし、門外漢だからこそ違った見方ができた。渡り鳥の鶴の生態を調べるバイオテレメトリーという技術を、私がたった一人で研究開発したことを誰も知らないため、いまだに冷や飯を食わされている」と笑わせながら講演に入った。

今回の特別企画は、昭和十三年・第四十期卒業の相馬正樹氏(東海大学名誉教授)が、海洋開発のための電子技術を導入する研究の中で遭遇した海洋動物の行動生態を調べる過程で経験した楽しさについて、「渡り鳥のふるさとを追って」と題した講演を行った。相馬氏は、大正九年、函館市近郊の大野町の生まれ。旧制・函館中学校を卒業後、東海大学の前身の旧制専門学校で通信工学を学ぶ。卒業後母校に残り、海洋学部教授を最後に五十年間の教員生活を終えて退職。現在は、バイオテレメトリーに関する三つの研究委員会委員をされている。主に電気回路、電子工学などに関する著書が十数冊あるが、ほかに世界の著名な科

動物を観察するため、動物を観察するために目視観測した記録は多かったが、それだけでは不十分なので、それを補うために目に見えない遠方や夜間、海中などの動物を観測する必要がある。これを補う技術がバイオテレメトリーである。具体的には、電波送信機を動物に装着して、陸上や海上、空中から測定して観測する方法であるが、最初は電波を用いた。これは二カ所で電波を測定し交差した場所から位置を調べるが、電波の到達距離が短いことと位置の誤差が大きかった。次は、超音波を利用したが、これも移動距離の大きな動物では追跡が難しかった。最近では自動車のナビゲーターステムにも利用されている人工衛星を用いたGPS技術が導入され正確性が一段と増



した。研究の開始当初は、電波送信機の重量が三百グラム以上あり、その重さに耐えるだけの動物でなければ送信機を装着することができず、始めは海洋動物では小型クジラやイルカ、ウミガメなどに限られていた。その後、四十グラムにまで小型・軽量化された世界で最も小型の送信機が鳥類の追跡用として実現し、鳥類を含めたあらゆる動物の追跡用に広く利用されるようになった。一九九〇年四月に、北海道クツチャ口湖に集結してシベリアへ帰るコハクチョウを初めて追跡し、二カ月にわたって三千五百キロメートルの追跡に成功。さらに、鹿児島県出水市からアムール川中流域に帰るツルを三年間調査して、



アジアのツルの移動の実態を初めて明らかにすることができた。

しかし、送信機がどんなに小型・軽量化したとしても、それを背負わされたり、装着されたりする動物にとっては大変な苦痛であり、研究という美名に隠れた『いじめ』を行っているようで動物たちに申し訳なく思っている」と、長年にわたる地道な研究の足跡を、実際に使用した機器について写真や図で示しながら学問的に、時にユーモアを交えながら、最新の電子工学技術を用いて行った海洋動物の生態研究結果を大変わかりやすく解説した。

講演会の終了後、会場を変えて、午後二時三十分より、懇親大会に移ったが、司会は、今年は第68期・木戸正文氏と第78期・岡部あさ子さんが担当した。

懇親大会では、最初に、旧制・函館中学校校歌(同窓会歌)「玄冥の北の一道……」を全員で合唱。雰囲気盛り上げた。

会も本行われていたことで、相互交流ができなかった。今後は、他支部との連携をうまくとりたいと考えている。この大会は、単に函中だけではなく、函館西、東函校の同窓会からもご出席いただいたり、感謝したい。本日は皆さんと一緒に函館を懐かしく語り合いながら一時を過ごしたい」と開会のあいさつを行った。

次に、来賓として出席された田中哲夫白楊ヶ丘同窓会副会長兼函館支部長、納谷泰文同窓会事務局長、高島巖同札幌支部長、菊池康三函館市東京事務所長、函館西高等学校・つじヶ丘同窓会・新谷義克会長、鎌田和子副会長、函館東高等学校・関東地区青雲同窓会・葛西真一副会長・辻政良同副会長・新山春一同幹事長をそれぞれ紹介した。

来賓を代表して、納谷事務局長が母校の最近の活動状況などについて、九月に本部同窓会大会が三百六十人程が参加して行われた。そして、十月には二つの大きな会があった。一つは、野球部の創部百年の記念会で式典と野球評論家・

豊田泰光氏の講演が行われた。もう一つは定時制の同窓会組織・楊燈会の百周年記念会があった。母校の生徒は、昭和四十年代後半は、一学年が九クラス、一クラス四十五人の合計四百五人が、現在は一学年七クラス、一クラス四十人、計二百八十人で、少子化の影響が出ています。少子化に加えて、遺愛や白百合、ラサールなどの私学が中高一貫教育での進学実績を目玉に子どもたちを集めており、優秀な生徒が集まりにくい状況にある。現在、女子が多く、今年の一年生は男子十七に対して女子二十三というクラス編成なので、昔の質実剛健を求めるのは難しくな



った。反面、明るく伸び伸びした雰囲気である。現在の大学への進学状況をみるといわゆる優秀校へは少ないため、淋しい面はあるが、我々教師としては生きる力を育て幅広い人格を育てるために努力している。そのため、生徒たちは素直で、先生も生徒も相互に信頼しているという良い状況にある。

ただ、大学進学以外にも就職面では心配があるので、東京支部でも卒業生の面倒をみていただきたい」と述べた。続いて、

菊池東京事務所長が「今年六月に赴任したばかりで、初めての東京の夏の蒸し暑さに閉口したが、秋になってからは多少は馴れて快適に過ごしている。東京事務所は、企業誘致が主な仕事だが、不景気で企業の方に会うこともままならない。白楊ヶ丘同窓会の皆さんによりしくご協力をお願いしたい」とあいさつ。そして、木戸浦函館市長からのメッセージを披露した。

この後、参加者の中で最も若い第94期(平成四年卒業)の大嶋紀安氏の首頭で乾杯、懇親会に移った。

会場内には、例年と同様に、函館市東京事務所から寄贈を受けた函館の夜景や元町界限などのポスターが多数貼られ、大会の雰囲気盛り上げた。

一年振りあるいは久しぶりに顔を会わせた同窓生は、先輩、後輩



の隔てなく会話が弾み、随所で懐かしい函館弁が聞かれた。また、時折記念写真のストロボが光るなど、会場内は終始和やかな雰囲気にも包まれていた。

そして、妻が最高に盛り上がった頃、恒例の寄贈品の抽選会に移ったが、今回も、北海道七飯町産のジャガイモを産地より自宅へ直送する同窓会特別賞を始め、函館市東京事務所寄贈の函館ワインや会員寄贈の洋酒やテレホンカードなど、およそ八十点が用意された。会場内では、賞品が当たる度に歓声が上がリ、一段と雰囲気盛り上がった。

大会の最後に、函館中部高等学校校歌「火柱のはためく峰も……」を全員で合唱。次回の再会を約束して、午後四時三十分過ぎ終了、散会した。

第22回・東京支部親睦大会出席者一覧

(平成10年10月24日・プレスセンター)

- 昭和9年卒(36期) 出町 卓・松原竹造
- 昭和10年卒(37期) 室谷邦雄
- 昭和12年卒(39期) 新 哲二郎
- 昭和13年卒(40期) 井上 勲・今井 清・相馬正樹
- 本田幸兵衛
- 昭和15年卒(42期) 田沼静一・村山正郎・安富隼平
- 昭和16年卒(43期) 井筒吉彦・笹島正秋・鈴木達男
- 昭和17年卒(44期) 石島芳郎・勝浦 晃
- 昭和18年卒(45期) 池上謹之助・佐藤誠悦
- 田沼修二・中村哲夫・船木政司
- 篠田作衛・橋本寛治・松木養三
- 昭和20年卒 (48・49・50期) 渡辺丞二・及川 博
- 昭和23(24)年卒 (51期) 今井辰一郎・小野寺吉彦
武長進午・西村源太郎
三國比左男
- 昭和25年卒(52期) 石田 端・井上 稔・高尾忠良
- 瀬田松吉昭・長島 康
- 福津達男・二上達也・吉田信一
- 佐々木順一
- 昭和26年卒(53期) 納代鉄也・澤口幹男・松岡康弘
- 昭和27年卒(54期) 杉田博子
- 昭和28年卒(55期) 赤澤 高・北原 徹・栗崎健一
- 昭和29年卒(56期) 河村和子・田村保子・横井静子
- 弦木 健・内藤 博・西田 実
- 塚本弘子・沼崎茂子
- 昭和30年卒(57期) 篠木繁男・野村 實・濱田 實
- 堀江郁子・松川澄子
- 佐藤行彦・坪田憲俊
- 昭和31年卒(58期) 今井宗隆・岡田正法・木村英俊
- 昭和32年卒(59期) 真船 昭・石橋令司・水本満雄
- 岸本文子・前波翠子
- 伊東政脩・金子公彦・菊池紀邦
- 野波暉也・橋本正夫・森岡達郎
- 青木真紀子・利光美子



- 昭和35年卒(62期) 藤田美穂子・堀内恵子
三上和子・水島紀子
荒井 浩・小松康宏・八田邦夫
- 昭和36年卒(63期) 松本光平・藤倉信子
越後谷宏・小熊勝夫・小林嘉則
- 昭和37年卒(64期) 山崎良英・土橋道子・山崎康子
山田篤子
- 昭和38年卒(65期) 大越陸夫・北村尚一・鈴木三則
- 昭和39年卒(66期) 山崎栄治・泉 清美
- 昭和40年卒(67期) 菅原大作・千葉恵寿・広瀬和子
- 昭和41年卒(68期) 石塚昌子
岩間昌夫・大山 優
- 昭和42年卒(69期) 奥野友行・木戸正文・山本晴義
能登谷一敏・目黒たみを
大河原綾子・児玉久美子
梅田五郎・梅田やよい
斎藤裕子・長谷川八穂子
山本久恵・米木かをり
斎藤真理子・養田啓子
- 昭和43年卒(70期) 佐藤昭治・千葉喜政・大和田裕美
- 昭和44年卒(71期) 小林肇治・谷口雅典
- 昭和45年卒(72期) 龍崎千遥
- 昭和47年卒(74期) 笹市英昭・吉川忠幸・桑原洋子
- 昭和48年卒(75期) 青木和彦・坂田知司郎・牧野静六
- 昭和50年卒(77期) 島津路郎・斯波宇司・高橋邦明
- 昭和51年卒(78期) 時田信彦・長澤一徳・福本泰久
山平匡人・成田吉道・佐藤説子
安部妃佐子・岡部あさ子
富山香里・武藤真木子
吉崎加代子
- 昭和52年卒(79期) 高橋政章・西田勢津子
- 平成4年卒(94期) 大嶋紀安



出席総数 148名

(5) 東京白楊だより

わたしの古都

(財団法人・古都保存財団発行・季刊「古都」20号掲載より)

新旧、東西文化の融合する函館



ノンフィクション作家
森本貞子

(36期・森本良平氏夫人)

プロフィール

- 1925 函館生まれの、東京育ち
- 1943 東京府立第一高女卒、森本良平氏と結婚
- 1981 「女の海濱、トネ・ミルンの青春」文芸春秋社より刊行
- 1987 「冬の家、島崎藤村夫人冬子」文芸春秋社より刊行
- 1990 文芸春秋社90年版ベストエッセイ集「エロと旅に」乃木大将と初代ミス日本」が掲載される
- 1992 8月1日開館の函館市旧イギリス領事館(開港記念館)展示パネル原稿及びミニチュア人形の監修にあたる
- 1993 「函館文学館」に常設作家として展示される
- 1998 文芸春秋社98年版ベストエッセイ集最高の贈り物に「蛍の光」が掲載される
- 1990~1998 神道時事問題研究誌に「明治の女たち」を100回掲載する
- 1998 古都保存財団発行...季刊「古都」に『わたしの古都』新旧、東西文化の融合する函館を執筆



ハリストス正教会

現代の函館は本州の主要都市と飛行機でわずか一時間余で結ばれているけれど、昔は津軽海峡を越えるのに連絡船だけでも四時間、ましてや帆船の時代には北東の風を待たねば渡れぬ難所だった。まさに「三日の丸くなるまで南部領(青森県)のたとえ通りである。それだけに北海道を蝦夷といった時代、函館には中央権力の目が及ばず北の大地に夢を託して渡る人々によってダイナミックな歴史が展開されたのである。



高田屋嘉兵衛像

昭和四十三年志海苔町海岸から三つの墓に入った古銭が発掘された。なんと合計四十四万余枚、九十四種類に及び、古銭の年代からみて十四世紀頃の備前古銭に違いなく、当時蝦夷の特産物、昆布、鮭などを広範囲に交易していた豪商がいたことを物語っている。古銭は現在、函館公園内の市立函館博物館に展示されており室町末期の勇壮な夢への想いをかきたてる。

当時、函館を制していたのは河野政通、彼の館が現在の基坂上にあつて海から箱のようにみえたので箱館の名が生まれた。函館となつたのは明治維新以後、北海道の古称蝦夷も昔函館にも住んでいたアイヌたちの人を意味する「aynu」がなまつたもの。現在、アイヌ、アリュートなどの北方民族の資料は基坂下の函館市北方民族資料館に展示されている。アイヌ独特の衣装模様は属する族で違つたださうである。ここはもと日本銀行函館支店で明治政府は函館日銀を横浜について全国一番目に開設、当時函館は経済的にも重視されていた。現在の建物は大正十五年の建築でいまでもその風格が漂う。

江戸時代の箱館は松前藩の統治下にあつて全国ただ一藩、禄高がない。当時蝦夷地では米が穫れないから、貢税や運上金(船舶税)で俸禄をまかなつていた。だからこそ本州各地で代々権勢を誇るような豪農がいるはずはなく、まして幕末の道南は西から東へと漁場が移りその中心が箱館港、海峡を越えてやってくる勇敢な人々の希望の新開地だった。これが漁業を根底にすえた商業港箱館の特色、いつの時代でも函館文化を支えたのは新興豪商なのだ。その幕末の代表人物が回船問屋高田屋嘉兵衛、波路島出身の彼は、北前船に志を乗せて道南はもちろん北洋、千島にまで航路を開き一代で財を築いた。彼の勇姿は現在、護国神社坂下の銅像に、彼の活躍ぶりは末広町の

北方歴史資料館にあらわである。蝦夷と関西を結ぶ北前船のお陰で大阪の昆布佃煮、京都の鰯そばなど関西名物がある。

幕末の蝦夷地周辺は異国船の来航しきりで幕府は文化四年(一八〇七)蝦夷地全島を直轄地とする。やがて安政元年(一八五四)ペリー艦隊来航の圧力で箱館は下田、長崎とともに開港。米、露、英、仏などの宣教師、医師、領事、貿易商らの相次ぐ来航で幕府は外人居留地を設定する。だが長崎十万人、横浜三十万人に比し、箱館はわずか二千坪、これでは倍増する異人を収容しきれず街人との雑居を許し箱館はさながら国際都市。露人医師の無料診療のお陰もあつて街人たちは異人と親交を結ぶありさま。ことに露国宣教師「ミライ」は後年同志社大学を創立する新島襄を邸に寄宿させ、新島は箱館の人福士成豊の援助

で箱館から米国密航に成功する。ニコライ宣教師縁のロシア正教は箱館が日本の発祥地、大三坂上の現在のハリストス正教会は大正五年建築の荘厳なビザンチン様式で玉ネギ型のキョボラの屋根とカンガン寺の異名とともにいまは函館名物となっている。この教会、戦前はグレゴリオ才暦採用でクリスマスは正月になつ

てから。大正から昭和にかけて湯川町にはかなりの亡命白系露人が住んでいて信者だつた。この教会の向かいに建つローマ・カトリック元町教会は大正十三年建築のゴシック様式。安政六年（一八五九）フランス人宣教師が開設し、祭壇はローマ法王十五世より贈られた日本唯一のもの。カトリック教会の東隣りが聖ヨハネ教会。明治末、函館に生まれた評論家亀井勝一郎は近くの米国メソジスト派教会の日曜学校に通い「世界中の宗教に囲まれて育つた」と語っている。



旧イギリス領事館

函館山の山裾に発達したこの街は沢山の坂を抱く。幕末、坂の中腹に英・露両国領事館が相次いで開設された。安政六年（一八五九）設立の英国領事館は昭和九年まで「ユニオンジャック旗を掲げ続けた。いくたびが火災にあい、現在、基坂中腹に建つ旧英国領事館は大正十二年竣工のレンガ造り二階建て。開港記念館として公開されており、半円形五連のアーチのベランダがしゃべっている。二階には近代地震学の父と称えられる英国人ジョン・ミルンと結婚した明治の函館女トネの生涯を紹介しながらパネルやモデル人形マジック・ビジョンで開港時の箱館の状況を伝えている。幸坂中腹の露國領事館は明治四十一年の建築。レンガ色に白のアクセントが帝政ロシア時代の雰囲気。昭和十九年まで執務していたとか。最近まで、道南青年の家として活用されていた。幕府は安政三年（一八五六）基坂中腹に諸術調所（主として科学洋学教授）を開設し武田斐三郎が教授。彼が蘭書で学んで設計したのが五稜郭、日本最初の洋式城郭で明治二年（一八六九）五稜郭は箱館戦争の舞台となる。慶応三年（一八六七）の幕府の大政奉還と官軍勝利で日本の近代は幕を明ける。現在の五稜郭は堀の側に建つタワーから眺めれば星型の五稜がより鮮明。ことに一月十五日から二月十四日までの期間は夜、ライトアップされた稜線が浮きあがって美しい。

視すればこそで札幌を北の都と定めたものの周辺はまだ原野、箱館を函館と改め北海道開拓の基点とする。その名残りが現在元町公園に建つ明治十三年建築のレンガ造り開拓使函館支庁書籍庫である。元町公園の秋をオンコの赤い実が色彩する。オンコはアイヌ語。その「一位の木」、笏を作るからこの名があつて函館市の木と制定されている。



幕末から箱館に滞在していた英国人フランクストンの提言で明治十二年現在の函館公園内に旧博物館が建設された。一号館は地方博物館として最古。一、二、三号館ともに玄関や軒先の装飾に米國開拓時代の

明治10年、函館・五稜郭の氷切り



すっかり雪に覆われた函館山を背景に、五稜郭の外濠で氷切りを行っているところだ。明治10年2月のこと。濠の水は袴腰岳を源とした亀田川から引かれ、当時は限りなく透明、清冽、良質であった。雑菌も少なく、氷になると固く、なかなか解けなかつたため、函館氷として全国的に知られていた。大沼や他の河川でも氷切りが行われたが、五稜郭の氷には及ばなかつた。

幕末のころ、氷は横浜に居留する外国人の飲料や食肉保存、医療などに利用されていた。明治初期までは米國・ポストンから最良の天然氷が輸入されていたのだが、長期間の輸送に目減りが激しく、高価だった。そこで牛乳販売をしていた中川嘉兵衛が国内産の氷に目をつけたのだ。富士山麓や秩父、赤城山、日光、青森などで試みたが、ポストン氷にはかなわなかつた。函館での試作にも失敗。明治2年、やっと五稜郭で成功をみた。だが、長閑な氷切り風景は機械による製氷技術の発達で、明治初期にはなくなつた。

写真提供・北方資料室

南部建築物の影響がある。一時荒れていたがお化粧なうて元通りの華やいだ姿をみせている。

やがて日清、日露戦争に勝利した日本は世界三大漁業地のひとつ北洋の漁業権を傘下に治め基地函館の全盛期が訪れる。現存する和洋折衷建築物の多くが明治から大正にかけて建造された。北国の寒さは南方系の日本式引戸より上下、左右に開く北方系様式窓のほつが暖かく戦前の函館の庶民住宅はいずれも洋式外観ながら内部は日本式。玄関先にボンボンタリヤを植えるのが流行、ボンボンはオランダ語が語源、日露漁業への出稼ぎで函館の人口は急増。日雇いをデモンといい英語の DAY・MANの略。ここでは方言まで異国語なのだ。現在基坂上の旧函館公会堂こそ函館の誇る明治四

十三年完成のイギリス・コロアルスタイル様式。近年のお化粧直しで昔の面影そのままのさながら貴婦人の品格。貴賓室のパラック彫刻と大理石を使った応接間が豪華。当時の豪商たちの寄附で建立されそのころからピアノ・リサイタルやダンスパーティーが開かれた。文化への憧れと富のゆとりがあればこそ。二階ベランダから函館湾を見降す絶景にため息が出る。公会堂に最高額の寄附をしたのが相馬家。いまも基坂下に建つ西洋館の相馬家は大正五年の建築。南京下見のモス・グリーンの装いが、ひととき郷愁をかきたてる。

明治四十年、函館を訪れた石川啄木は、函館で死にたいと語った。函館の雰囲気と友情が詩人の口マンを誘ったのだろう。啄木初め函館に縁の文学者を紹介しているのが末広町の函館市文学館。もとは大正十一年建築の旧第一銀行で、二階回廊が英国風でモダンである。

明治四十一年建設の杉並町遺愛学院旧宣教師館はもとアメリカ人女性宣教師の住宅、白い南京下見の外壁と張り出し窓の気品さからホワイト・ハウスの名がある。湯の川のリーリーの花咲く丘に建つ聖母トラピスチヌ修道院は明治末の建築。レンガ色の建物が緑の丘に融け込み祈りを告げる鐘の音とともに荘厳なたたずまいである。いずれも函館とミッションの深い縁を



旧函館公会堂



赤レンガ造りの倉庫群

語っている。

明治三十四年建築の弁天町太刀川家は昔米穀商、回漕業をかねた豪商。家の前方は海なので火の懸念がなく両側がレンガ壁を漆喰で塗り込めた卯建(防火袖壁)。大火が名物時代の知恵である。北海道の特産石炭の粉を入れた二階客間の壁はまるで黒曜石の光沢。明治の洋風耐火建築の傑作が明治十三年建築の旧金森洋物店。現在の郷土資料館である。店先の CANEMORI

明治末期、北海道・函館の移住民たち



大と屋号が見える中央右側の旅館の2階には、移住民取扱員事務所と大書された看板が。明治末期ごろの北海道・函館の東浜棧橋の様だ。本州からの移住民たちは絶えることなく、宿屋はどこも繁盛していた。

青森から貨客船に乗り、函館港の沖合で小船に乗り換えて棧橋に向かう方法がとられていた。北海道庁は道内に働き手を確保するために、彼ら移住民には特別な割引料金システムを設けた。鉄道は20%から50%、船賃は30%から50%、宿賃も30%から50%割引いた低料金で優遇されていたのだ。なかでも宿賃の安かった函館に人々は集中した。函館の宿賃は小樽より5銭安かった。

移住民は、ここから道内各地に移住していった。農業や牧畜に従事する者が80%を占め、その他の者は商業や職工、大工、炭坑などの職についた。移住者は東北、北陸地方の出身者が圧倒的に多く、宮城、青森、秋田、新潟、富山の順。

写真提供・北方資料室



函館に残る日本最古の写真



本格的な貿易が始まったのはアメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスとの修好通商条約が結ばれた翌年の安政六年（一八五九）以来、横浜・長崎とともに運上所と呼ばれる税関が設置され、貿易港としての機能が整備されるにともない、西洋諸国からさまざまな文明・文化が流入。近代化のまぶしい光を浴びながら、ハイカラな街・箱館が形づくられていきました。

ミッドの横文字が面白く展示品の大型オルゴールがクトー作曲英国マーチなど六曲を奏で人形が踊りだす精巧さが百年前の製品とは驚くばかり。金森洋物店の元の持主は明治の豪商渡辺家。函館湾に臨む金森倉庫群の近年の開発変貌ぶりはまさに明治の渡辺家の活力そのもの。旧金森船具店は明治四十四年建築でいまはクリスタル・パカラの宝庫。豪壮な倉庫群は変身なうて金森ビヤホール、金森ホール、ヒストリープラザに。それらの建物はすべて新旧のデザインを生かしユニークで

斬新な魅力にみちている。昔、馬車が横づけした倉庫群に現在マイカーの列、港や運河にもる灯またたく夜、海辺のロマンが若人の人気をさそつ。
函館に夜の帳が降りるころ函館山から臨む宵の街は装いをかえてファンタジックな光の宴をくりひるげる。細い扇型の街の灯は五色にきらめきカー・ライトは光の川となつて流れる。ライト・マップされたエキゾチックな建物はサファイヤ色の姿を浮き上がらせ、秋には沖合遙かに金色の鳥賊釣りの灯がまたたく。

原色の多い香港夜景とは一味違う清らかな光が虹色に舞う夜景である。昔函館山は要塞で秘密のペールに覆われ、山の景観が市民の手にもどつたのは戦後のこと。近年函館では八月十三日を夜景の日とした。夜景を「8・K」とかけて「8・13」と解く。こころはトランプのキングのK13で八月十三日。若者の「このユニークな発想を実現させたのも函館なればこそ。地形も歴史も夜景も函館の街は自然と人工の和音が奏でる新旧東西文化の融合美あふれる魅惑の都市である。

日本最古として知られる写真が今も函館に残されています。これは日米和親条約が結ばれ、安政元年（一八五四）箱館視察のため訪れたアメリカの使節ペリーの艦隊に

同乗していた写真家・ブラウンが、ペリーの応接にやつてきた松前藩士を撮影したものです。最古の写真が語るよつに、函館は近代日本の中でもっとも早く開かれた、北の国際貿易

易港」として以後、諸外国の文明・文化とふれあい続けていきました。

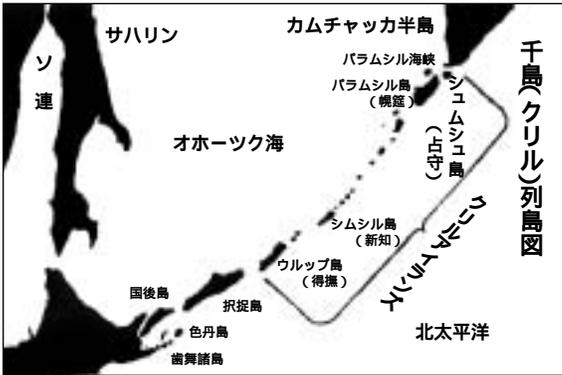


函館港と北方領土

34期(昭和7年卒)
徳田 肇

函館港は安政六年(一八五九)横浜、長崎港とともに開港となり、三港に「運上所」が設置された。明治五年(一八七二)「税関」と呼称されて現在に至り、今秋二七周年の記念日(十月二十八日、曆に「税関の日」と載る)を迎えることになりました。函館税関の管轄区域は北海道、東北三県(秋田・岩手・青森)となっており、北海道の一部である北方四島(歯舞諸島、色丹島、国後島及び択捉島)は自分の間外国とみなすと、税法規に記されている。私の官歴はこの郷土税関に始まるが、当時の管轄区域には樺太と千島列島が含まれていた。そして晩年奇しくも長として此の官庁に赴任した。

昭和十二年、特派官吏として北千島に渡り、幌筈島(現パラムシル島)摺鉢湾に在りて、北洋漁業に必要な



別所佐吉は予備海軍大尉郡司成忠(作家幸田露伴の実兄)が結成し

外国塩の輸入と現地で生産された鮭鱈缶詰の欧米向輸出の通関事務を主任務とした。遠くエジプト・アデン・ソマリアランド等から積出された岩塩、撒塩は一旦函館・小樽の両港で陸揚げされ、梱包保管後、漁況に応じ機帆船によつて北千島に輸送される。塩専売法施行地外のこの地域で専売局の手を経ること無く自由に輸入できる仕組となつており、税関手続きを済ますと、機帆船は塩蔵用に、また缶詰製造用にと漁場・缶詰工場へと輸送していた。

蘆溝橋事件を発端に戦争へと突入した七月、多くの若人が歓呼の声に送られて島を去つて往つた情景が今猶私の脳裏に残る。在島期間(四月、九月)中に、機会を捉えて占守島(シュムシユ)に渡り、日本最北端より十海里の水域を隔てた彼岸にソ連領カムチャツカ半島と万年雪の連峰を望見した。次いで明治年間にこの島に永住したという別所佐吉翁の遺族を訪ねた。

た報効義会の第2次渡島隊に加わり、北千島の開拓に貢献し、島を終焉の地とした人である。私が訪れた頃、遺族達は川上りする鮭鱈の漁獲特権を与えられて細々ながらの生計を保つていた。

最終の官務に管内視察があつて、その一環として道東根室の地を初めて訪れ納沙布岬へと足を伸ばした。灯台の台地から北方四島を望み、根室税関支署管内に在るべき島々を外国視しなければならぬのかと複雑な思いに駆られた。岬から根室市街への道筋で原野に開拓時代の屯田兵宿舎を思わせる家屋と牧舎を、その周辺で草を食む放牧を眼にしたが、後日になつてその持主が占守島に住んでいた別所一家一族と知つた。終戦直後の3年間ソ連領に抑留され、帰国してから此の地に移り住んだという。

日本政府は外交面に於いて北方四島につき、これらの島々は北海道の一部であり、国後、択捉は千島列島(クリル諸島)とは違つて一度も外国の領土となつた事実は無く、日本固有の領土であること、更にこれらの諸島は動植物分布などで地理的条件も千島列島とは異なると強調して早期返還を求めていることを付記し、函館港の発展と北方四島の早期復帰を祈念して筆を擱く。

ブルガリアにさくらを植える
40期(昭和13年卒)
相馬 正樹

私たちが寄贈したさくらの苗木が生長しまして、植樹祭をするから出席してほしいとの招待がありましたので、今年の四月一三日ブルガリアの黒海に臨むリゾート都市バルナ市に出かけ、植樹祭に出席して参りました。

どうしてブルガリアなのかと言へば、私の勤めておりました東海大学海洋学部、ブルガリアからの交換教授や優秀な研究生ならびに学生が八名ほどおりました。彼等は帰国してからも海洋の研究に関する交流が続いており、数年前にブルガリア全国の卒業生に呼び掛けて、同窓会のソフィア支部を結成することになり、全国から十数名が集まりました。

卒業生の中には元駐日ブルガリア大使がおりますので、この方を支部長にお願いし一九九五年十月にソフィア支部が発足しました。

この席上で私は両国の国際親善を記念して桜を植えようという提案しました。バルナ市の知事や市長がこの計画に賛同されたので、取り敢えず五十本の苗木を送り、それから四年を経過しましたので、今春の開花前にサクラ並木を公園内に移植する運びになった次第です。植樹祭には新聞やテレビの取材あり、小学生による民族舞踊の公演もあつて、市長の歓迎午餐会に日本からの参加者全員が招待され、その好意ある歓迎ぶりに大いに感激致しました。

これにかかりました経費は、本会の二上支部長をはじめ田沼監事



ほか多くの支部会員からの寄付を頂いたばかりか、私の同期生が老骨に鞭うってブルガリアまで同行してくれましたので、白楊ヶ丘同窓会とも関係が深いことから、会報の紙面をお借りしてお礼と御紹介をさせて頂きました。

もう三年もしたら、この相馬桜並木のお花見ができるでしょうから、現地で日本式「花見の宴」の研修会も予定しておりますので、その道の達人である会員の皆様の参加を期待しております。



碧血碑の臥牛

51期（昭和23・24年卒）

三國比左男

昭和九年の大火で焼き出され、一時期函館八幡宮の下に住みました。前には通称「伊藤の池」（現在は函館八幡宮外苑野球場）があり、神社の境内とともに格好の遊び場でした。また少し足を延ばして碧血碑にも行きました。

ここにはピカピカ（真鍮？）の牛が寝そべっており、これに跨ってよく遊んだものです。

昭和一七年五月、政府は「金属回収令」を出し、鉄、銅などの金属を強制的に供出させることになりました。このため各種の銅像や建物に使用してある金属、寺院の梵鐘などが根こそぎ供出も命ぜられました。タンスの引き手、階段の手すり、お釜や鉄瓶など各家庭の小さな金物類すべてが兵器弾丸の製造に動員されたのです。

碧血碑の牛も例外ではありません

大沼公園の展望台、甲子園球場の大鉄傘などと運命を共にしたものでした。

十一年前に帰省した折、懐かしうて碧血碑に足を運んだのでした。台座のみが寂しく残っていただけで牛の姿はなく、大きな藪蚊群に襲われてほろほろの体で逃げ出してしまいました。

本年二月の北海道道南会に函館市岩船企画部長がお見えになったので「碧血碑の牛を復元して下さい」とお願いしました。岩船部長には初耳だったらしくメモをくれましたが、後日関谷企画管理課長から丁寧なお便りとともに「碧血碑とその周辺（函館碧血会会長柳川昭折治記録）」のコピーが送られてきました。その牛の項には、唐金臥牛

一、昭和十一年七月三十日
全国宗教団体弘安海（会？）が寄進。榎本赦免後、尽忠の土前に寄進。

この臥牛像は、靖国神社、龜山上皇銅像前、新京忠魂碑前、台湾

神社、碧血碑前の五力所だけのものであったのです。

二、昭和十八年六月三十日

この歴史的に評価した事実があったのですが、戦況激しく武器材不足のため金属回収されたので。境内に廻した鉄柵も同じ運命になりました。

現在は、槍状の飾り鉄だけが、崩れたコンクリート柵角に残っている。この修復を、歴史景観整備に力を入れている市に陳情準備中。

と記されており、さらに「榎本武揚の依頼で幕臣和田惟一は碧血碑を管理する」という記述もありました。幕臣和田惟一とは、昨年亡くなられた当支部顧問和田貞一先輩の祖父であり、和田先輩は祖父の遺志を継いで、永年「函館碧血会」のお世話をなさったのだそうです。

ピカピカの牛が甦ったら、孫を乗っけてやろうと思っています。



新撰組副長・土方歳三をはじめ、箱館戦争で戦死した旧幕府軍脱走兵約800名が葬られている。碧血とは、「義に殉じて流した武人の血は3年たつと碧色になる。」という中国の故事によるもの。

同期会誌『莫逆の友』発行

55期（昭和28年卒）

栗崎 健一

「バクギャクノトモ」とは何と発音し難い聞き慣れない言葉でしょう。辞書をひくと「逆らうこと莫（な）し、互いに気心が通じ争う事のない新しい間柄」とある。これぞ恐らくは数多盛んな同期会においても、余り他に類例のないと思われる同期会誌、わがニッパチ会の機関誌名なのであります。名付け親は東諄晃君。

大阪義通事務局長の発刊の辞によれば、毎年の総会にはいろいろな事情で出席できないという同期諸氏も、投稿による紙上参加なら比較的簡単に交流の輪に加われるだろうとの思いで企画したとあります。僅か20頁程の小冊子ではありますが、内容は青春時代の思い出から最近の各人の近況などフリエッセイ諸々、ともすれば途切れ勝ちなコミュニケーション復活の一方方法として面白く、各期の皆さん方も如何。因みに刊行は不定期で、年一・二回投稿がある程度まとまった段階で、編集発行するというものです。

ニッパチ会の始まり

函中ニッパチ会

会長 奈良 敏男

25年前のこと、大阪君から電話がきた。「奈良か？実はきみの名前を借りて案内状を出したから宜しくなあ」「アッソー、出してしまつたらしゃないなあ」……つまりは初の同期会を開催するため知名度？の高い小生の名を借りたというのである。軽いつもりだったが実はこれが尾を引いた。

間もなく感動的な再会を果たしたのは昭和50年の早春である。歓声飛び交い手を取り目を潤ませ、ある者は荒っぽく肩叩き合い、別け隔てなく何でも話せる雰囲気の時を忘れ百花斉放のうちに「函中ニッパチ会」は誕生した。

時を越えまるで青春を取り戻したように不惑のパワーはやること成すこと総てが我武者羅である。「今」と一緒だけと出られないか？「どこにいるんだ」「安里だ」「よし待ってれ」大山理子さんの店

ひと声かかれはすくたがが緩み、時には語り明かしてそのまま仕事に向つた日もあった。心は寛ぎ遂に札幌、登別、室蘭、湯河原、はては大阪へと翔び廻つたのである。そして極め付け、星野君の「ダイアナ」と石井君の「悲しい酒」にはいつものパターソンと知りながら又々その又抱腹絶倒……ついに散り急いだ同期の桜を追想し、言い知れぬ哀歎のロマンを重ねている。



莫逆の友

創刊号

昭和28年(55期)卒業
北海道立函館中野高等学校
(函中ニッパチ会)

ざつとなぞらえてみたが、かくも心を喰(く)る同期会とは何か？函中百年祭では各期が大挙し飛行機もホテルも満杯だったと聞いて驚いたが、これはたぶん青春回顧の触れ合いを通し明日の活力を生み出す深奥な繋がりに誘引されるためではないだろうか。

この所皆、かつてのパワーは溜めたが、ニッパチ会は、まだ全期を通しNO.1の結束を保っている。ニッパチ便りは更にそれを守る役目を担ってくれることだろう。

終わりに一言。我が会は円転滑脱たる大阪君の奮闘と皆様の温かい支援により発展を続け小生は大船に便乗させてもらっている。では、益々のご支援と、皆様との楽しい再会を待つことにしよう。

小学校を知らない世代

55期(昭和28年卒)
東 時雄

二十世紀の回顧物が氾濫するこの時代、我々世代にもあれこれ思い起こさせてくれる。最近のベストセラー「少年H」など、中学・高校生活を戦争直後の混乱の時期に過ごした者にとって、独特の思い入れがあるのは「あの頃」である。

我々昭和一桁最後の九年生(昭和十六年四月入学)は、学校制度上昭和十六年四月から六年間の「国民学校」にすっぽり当てはまり、前後の学生と違い「小学生生活」を全く知らない。上級生も下級生も一度は小学生であった筈、我々の学年のみが一貫して「国民学校児童」で過ごし、その後にく学制改革の流れにもすっかり組み込まれてしまった事になる。

中学受験も目前で消滅、新制中学第一期、新制高校最初の受験を経て晴れて函館中部高校生となったのであった(最近「新制」が使われなくなってしまうが...)。時同じく新区制がスタート、男女共学移行のため函館は中・女学校三校の先生・生徒がシャッフルされ、それまで専ら男子又は女子を教えてこられた諸先生、又、男女共学を知らぬ上級生も戸惑いの連続で大変だった様だ。

入学早々、パンカラな先輩が活を入れると称して集会に乱入したり、生徒会での函館中部高校の略称が「函中」に決まるまでの論議に沸いたことなど、新参の我々には新しい驚きの連続でもあった。

又、伝統的なあだ名の名物先生には、今もって愛着を持っていて。あの頃が懐かしく思い出される。

情報の飛び交う今と違い、さしたる外乱も誘惑もなく充実した高校生活を送る環境はしっかりと整っていた様で、隔世の感がある。

日本が大きく転回したあの頃、あれこれ積み重ねてか我々昭和二十八年卒業(五十五期)生の結末は非常に固い。折にふれての同期会も高い出席率を誇り、集うたびに半世紀に近い時の隔たりを忘れて談義に花が咲く。大事にしたいものである。

六十も半ばに達すると益々あの頃に思いを馳せる様になる。そろそろ、それなりの年齢になったと言ふことなのであろうか。

あだ名

62期(昭和35年卒)
西野 鷹志

「西野君、立って下さい。いきなり先生に名前を呼ばれびっくり。バネがはじかれた如く直立不動。「漢詩の出だしを読んで「らん」「ハイ」と元気に返事をしたが、後が続かない。血が頭にのぼって、たった今、教わった読み方がどこかへ吹っこんだのだ。函館中部高校に入学直後、漢文の授業で立ち往生したありさまは、四十年経っても記憶に新しい。



昭和35年頃の職員室風景：あだ名先生がソロソロ見える

親父に、この一件を話すと、即座に「俺も教わった板垣先生で、あだ名はジャクだよ」と懐かしげだった。漢文を訓読する時、返り点「レ」の記号により下から上へ返って読む約束事がある。下から上へ読むので逆、ギャクがなまってジャクとなり、あだ名が生まれたとはい、親父の話。

当時の函中には、名物先生、実力先生がソロソロ。あだ名も絶妙で本人にびつたり。漢文のジャク以外にも数学のオモチャ、国語のドン、生物のクロカンとスベロ、数学のペロ、英語のパン屋とロング、日本史のボンズ、保健体育のドセ。ドセの由来は、ドシラソファミレドをドセラソファミレドとドセ先生になったとか。

米寿ガッツ先生を祝う会

60期(昭和33年卒)
松田 栄美子

浜岡栄一先生担任60期三年七組の第六回「ガッツの米寿と会員の還暦を祝う会」が六月四日洞爺湖万世閣で開催されました。第一回の卒業した年の夏休みから、時を重ねて四十年以上になりました。

今回は札幌近郊在住の方々が、実行委員になられ、人生の節目である私共とお元気な先生との再会には有意義なものでした。

夜の洞爺湖の花火見学・新潟の所明彦さんからの差し入れの名酒を呑みながら、出席出来なかった会員の安否を先生が気づかってくさいました。今野重信さんは中国上海に住を移すと意気軒昂!! 先生を囲んでのマージャン大会



カラオケは夜ふけまで。次の日は昭和新山から横綱北の湖記念会館、バスで洞爺湖周辺の自然を満喫。先生から「寿無涯」の入ったカードを還暦祝いに拝受しました。

函中野球部創部百周年記念祝賀会

平成10年10月10日 ホテルロイヤル柏木



平成10年10月10日午後2時から函館市、ホテルロイヤル柏木において、歴代野球部長、野球部OB、他校の野球関係者参集のもと函中野球部創部百年記念式、記念講演（野球評論家豊田泰光氏）、記念祝賀会が盛大に行われた。また、函中野球部百年誌が刊行され記念に配付された。

函中野球部百周年を迎えて
 函館中部高校野球部OB会
 会長 坊 吉太郎
 第54期・昭和27年卒

明治三十二年函中野球部創立以来、ここに二〇周年を迎えて、かくも盛大な記念式典と祝賀会を行うことができ、大変嬉しく思っております。常日頃尊敬してやまない先輩を目前にして、野球部の歴史の重みをひしひしと感じております。炎天下のグラウンドの土にまみれ共に勝利の喜びに酔い、また痛恨の一球に泣いた体験は私達の人生の支えとなつて今日に及

道高野連会長に就任



渡部 義徳氏
 (63期・昭和36年卒)

「高校野球に対する熱い思いは、人に負けない」との思いは人一倍強い。十三日の道高野連総会で新会長に就任した、春のセンバツ甲子園で沖縄尚学高の初優勝を見て、刺激を受けた。北海道に優勝旗を持って来るのも夢ではないと思いましたと目

んでおります。

一〇〇年を顧みて、特筆すべきは何と言っても大正一〇年第二回北海道中等学校野球大会に出場し、決勝戦で函館商業を破って初の優勝をし、大阪鳴尾球場で行われた第七回全国大会に出場したことです。

後に第二次世界大戦による四年間のブランクがありました。未曾有の混乱の中から戦後の一年といつ驚くべき早さで大会は終了した。

長い戦争がやまと集結し、どん底に落ち込んでいた暗黒の時代であり、食へる物がなく着る物もなかった。大阪の街には戦災孤児があふれ混乱と虚脱の世相が広がっていた。

この食糧難の苦しい悪条件下、二度目の全道を制覇した昭和二十一年水上、飯田両氏のバテリーで、第二十八回全国中等学校野球大会西宮球場に駒を進めた。「戦後復活した大会の開催地は当時の甲子園球場がアメリカ軍に接収されていたので、甲子園球場は使用出来ず」

を輝かせる。

小学生から野球を始め、函中部高では捕手として活躍。三年生だった一九六〇年夏の南北北海道大会でベスト4に進出した。

日体大を卒業後、保健体育の教師になつてからは母校の函中部高を振り出しに三校で監督を務めた。札幌商高時代は夫人を実家に帰し、自宅を合宿所にしたことも、生徒にふるを空だきされてかまが壊れ、大損害を被つたこともあると懐かしそう。

八三年から道教委指導主事として八九年のはまなす国体に向けて全競技の選手強化を担当した。そこで学んだことは、いい指導者にはいい指導を受けさせることの大切さとい

昭和二十三年学制改革による男女共学の実施、中等野球は高校野球に変わり、同時に野球部員も通学区

域による制度に従い現在の東、中部、西高校へと部員も三校に分割される羽目となつた。昨日まで一緒に練習して来た仲間が切り裂かれ、選手も監督も言葉には言い表せない複雑な心境にかられ、当時としては想像も出来ぬ程にショックを受けました。昨日の友は今日の仇、とことわざを地で行く悲しくもまた苦しい思いをさせられた改革の時代でした。

しかし、残念ながら大活躍された沼沢康一郎氏をはじめ多くの方が幽明境を異にされ、ここに心から冥福をお祈りいたします。

歴史は単に振り返るだけのものではありません。高校野球も年々変化していくことと思いますが、二十一世紀を見据え先輩諸氏の歩んだ道を踏みしめ、ひたむきに闘い続ける精神こそ甲子園への道に続くものと待望し止まぬものであります。

う。道高野連が毎年一回、道外から有力校の監督を招いて行っている指導者講習会についても、中学校、少年野球の監督も参加できるようにして、すそ野を広げたいと意欲をのぞかせる。

一方で、勝利至上主義には疑問を投げ掛ける。力のない選手も極力試合に出し、喜びを味わわせるべきだと思ひます。そうした指導が人間形成につながっていくと、教育者としての細やかな配慮も忘れぬ。

現職は石狩南高校長。同校の教職員で結成する朝野球チームで、いまでも一壘を守る。

(北海道新聞「ひと」より)

第42期・高楊会

安富 隼平 記

今年六月函館で喜寿記念高楊会総会が開催されるので、こころしはら集まらなかつた東京高楊会は、新年会を兼ねて喜寿前夜祭を開催することとなった。

一月二十三日(土)正午から二時、間ニュー・トーキー数寄屋橋本店8F高尾、会費五千元。出席者十二名(写真右から)関佐藤(四郎)、仲村庄司、荒木勇、佐々木金一、山内正彌、上杉壽彦、宮本壽一、長沼洋一、小山田(本間)彰、小佐治朝生、村山正郎、安富隼平。開会の辞・山内、受付会計・佐々木、司会・仲村、閉会の辞・関、庶務・安富と分担。函館から北海道製菓百本社社長、カン



パン(持参、函館弁で)挨拶。議題東京支部資金の有効な使い方は山内会長の議事進行で解決。仲村画伯若かりし頃の作品、級長の顔、山内会長へ贈呈。

(付記)喜寿記念高楊会総会は、六月十五日(火)函館ハーバービューホテルで盛大に開催された。同期二二九名中現在員九六名、うち出席三名。記念写真、物故者一〇七名の追悼回向(住山住職)。開会の辞は東京高楊会山内会長、乾杯は田沼静一氏、郷土食豊かな料理と美酒。万歳三唱は大会長村上健介氏。閉会の乾杯池田進氏。翌十六日朝食を共にして散会。

第43期 東京・函中一六会

今年は、同じ五月中に東京と札幌両地区で同期会が行なわれた。

東京地区

東京地区の幹事は今年から安岡・續の両君が担当しているが、同期会が五月十三日横浜中華街の、菜香新館にて、夫人同伴を含む十七人が出席して開催された。

当日は十数年ぶり三人(小林、須貝、吉江)の顔を見ることができたが、午後一時から本格的な中華料理の会食の後、横浜市内の名所(元町通り、外人墓地、港の見える丘公園、横浜港氷川丸を見物し、シーバスに乗船して横浜駅東口へ渡り、お茶を喫して、午後六時に解散したが、約五時間昔の仲間と談笑し、帰途は少々疲れを覚えたが、楽しい半日を

過ごし、寿命が延びた感じであった。

(後で知ったことだが、解散した後、ハムクの夜を満喫した豪の者が約二名いたことか。)

札幌地区

札幌地区の同期会は五月十八日、小樽市郊外朝里川温泉朝里荘において、一泊コースで開催された。

この日は朝から雨模様であったが、函館から高橋、東京から小生が参加するのを八人が小樽駅で待ち合わせていただき、十人そろって午後四時頃朝里荘に到着、約三十分簡単な例会を行った後、宴会に入ったが、いろいろ珍しい(馳走をいただき、夜遅くまで歓談やマイジャンに時を過ごした。

翌日も雨であったが、バスで札幌へ戻り、北海道立近代美術館で『シルクロードの煌めき 中国・美の至宝』展を見学した後、今秋函館の同期会での再会を約して解散した。

両地区の同期会を通じ、喜寿に近い年齢でありながらよく食べ、よく飲み、よくしゃべり、その驚くべき壮健さに感歎したことであった。

第46期だより

渡辺 保二 記

我々函中46期生は5年毎に全国規模の同期会を青春の地函館で開催している。最初は35周年からスタートしたので、55周年は記念同期会として5回目である。さて55周年のイベントは去る6月11日から13日の3日間にわたり行われた。行事日

程、内容は次の通り。

・6月11日、函館湾周航サンセットクルーズ(午後6時よりヨット2艇による函館港から立待岬沖に至る周航、下船後金森倉庫群のピヤホールにて前夜祭)

・6月12日、観光及び祝賀会
午後1時より貸切バスで上磯男子トラピスト、及び元町ハリストス正教会を見学。午後5時30分より五島軒にて記念写真撮影。午後6時より王朝の間で祝賀会。

・6月13日、ゴルフコンペ
北海道CC大沼コースで18ホールズ・ストロークプレイ

以上の通り我々にとって豪華なイベントであった。なかでもその中心である祝賀会は昔懐かしい五島軒で行われた。五島軒といえば創業明治12年我が国最古のレストランである。私も子供の頃、父親によく連れられ食事をしたことがあるが建物は当時と全く変わっていない。出席者は85名、内訳は同期生75名、ご夫人3名ご遺族7名である。我々の年齢は既に70を越え同期の3分の1は故人となり、病氣療養中の者は5分の1に達している。

年齢を取るに従い人数が減るのは致しかたないが一抹の淋しさを禁じえない。写真撮影に続き江口甲一郎君(江口眼科病院院長)の挨拶、大進寺小三郎君(みちのく銀行会長)の祝杯で開宴となり全国から集まった同期生と何年ぶりかで旧交を温めた。宴たけなわ、アトラクションとして函館女性コーラス、キャッツ

アイが登場、さまざまなお話を聴かせてくれた。会場はセーラムロード満点、すっかり55年前の少年に戻ったようにはしゃぎ具合、これが古希を過ぎた老人達の集まりとは思えない雰囲気であった。

酒も回り歓談は尽きないが、二次会の予定もあるので、最後に大須賀康浩君(全日本合唱連盟役員)の指揮で函中校歌を全員で斉唱し、次回60周年の再会を約して散会した次第である。

第47期だより

松村 豊 記

恒例の同期会を、四月七日、有楽町のニュー・トーキーで午後五時から開催しました。東京地区のメンバーは、昨年度は、鬼籍に入られた方も無く、十二支の六回目を元気に迎えています。38名の案内状に全員返事がありません。

今回は、札幌から成田庄司、大阪の池田市から山下一雄の両氏が遠路出席してくれました。(出席者23名)

いつもながら、よく食べ、よく飲み(ウイスキー)の追加はいつもよく語り、函館中学時代に戻って、すっかり盛り上がりつつあります。

優等生が、煙草問題で、停学一週間をくらった話、国民皆兵の波にもまれて、教師から半強制的に、軍隊に志願を勧められた話、勤労動員の話、等々……激動の時代を経験してきた生きざまを、走馬灯のように、皆でタイム・スリップしていました。

こんな経験が、人生の厚みになって
いるのかも知れません。

篠崎昭彦氏は、11年春の叙勲で五
月七日、勲二等旭日重光章」を受け
ました。おめでとございませう。

第51期・あずまし会
三國比左男 記

今年のおあずまし会総会・懇親会
は、四月一七日午後四時半から日比
谷「聘珍楼」で、会員一九名のほか、
恒例となった同世代の女学生七名
(芹立高女五、白百合二)が特別参加
して、華やかに行われた。

総会では、二〇〇一年の東京大会
(あずまし会担当)の開催時期・場
所・会の愛称等についてのアンケー
ト結果が報告され、いよいよその準
備作業に入ることになった。

懇親会では、病を押して駆けつけ
た山田副会長の乾杯で始まり、昨年
函館で行われた卒業50周年記念大
会の想い出話や、昔近づき難かった
女学生との交歓に、あつという間に
三時間が経過し、名残を惜しみつつ
三本締めでお開きとなった。なお、
竹村元宏君が苦勞して編集した卒
業50周年大会のビデオテープが会
員に配付された。

函中第51回生どんじり会
卒業50周年記念全国大会

「函中どんじり会」は、昭和十八
年四月に入学、同二十三年、旧制中
学最後(どんじり)の函館中学校と、
翌年の新制高校(現・函中部高校)
を巣立った三百五十人の函中五十一
回生の愛称です。

戦後の混乱がまだ収まらぬ時に
自分の進む道を求め、夢を抱いてい



た白楊健児たち。全国大会は昭和
五十三年の卒業三十周年を皮切り
に五年ごとに実施し、昨年十月に五
十周年を迎えました。

恩師、会員ら百十人が故郷に集
い、級友の西堀恭治君が、高年仲間
入り」と題して記念講演。物故会員
慰霊祭、祝賀会と進み、東京支部会
員の早坂茂三君の「トモアあふれる
話から会場の雰囲気が一気に和や
かになり、時のたつのも忘れるほど
でした。

函館で青春を燃やしたあの友、こ
の友。「お前の頭、随分白くなつたな
あ」お前だつてすっかり薄くなつち
やつて」。万感胸の熱くなる思いでし
た。語り合い飲むうちに当時の彼の
顔が蘇り、新たな友情を深め合い
ました。

古希を前にした私たちはこれもも
ひとつの節目として将来に向け羽ば
たいて行くことを念じ、また会う日
を約して記念大会を終えました。

第56期・福祿会東京支部
山崎 克己 記

四十五周年記念同期会開催
於 鬼怒川温泉
新緑鮮やかな春の一日、五月三
十・三十一日に二泊旅行の卒業四十
五周年記念同期会を、鬼怒川温泉ホ
テルで開催しました。

札幌、函館からの参加者も含め、
総勢三十三名が出席。姿形は変わ
れども、心は少年・少女時代に立ち
返つて、夜も更けるのも忘れて楽し
みました。

亡くなった同期生四十四名の冥福
を祈つて黙祷を捧げた後の宴会。二

次会は、青春いまだ衰えずカラオ
ケ、ダンス 男女揃つての飲みっぷり
の良さ。戦中・戦後の食料難の時代
に育つただけに、ホテルの支配人か
ら、凄じいパーですな」と驚かれるく
らいの健啖家ぶり。それぞれ皆さん
第二の人生を楽しく快調に歩んで
いるようです。

私たち五十六期が卒業した昭和
二十九年は、青函連絡船洞爺丸が遭
難し、中部高校のボブア並木がねこ
そぎ倒された年でした。

四十五年それぞれ道は異なりま
したが、時代の荒波を乗り越え、航
海を終えてやつと母港に辿り着いた
心境です。

なによりも健康であつたこと、そ
して多くの良き友人にめぐり会え
たこと、これが私たちが四十五年で
得た最大の財産だと思ひます。これ
からは、経験と培つた叡智を持つて、
少しでも社会に貢献できれば、と同
期生皆が願つております。

国旗・国家の制定と世間はかまひ
すしいですが、私たちには、格調高
い母校の校歌……「不滅の生命」を
高らかに歌い続けていくほうが、よ
り大事な気が致します。かつて同窓
会で活躍した故黒川陸郎君の墓前
で校歌を斉唱した時、お坊さんに素
晴しい校歌だと褒められたことが
ありました。

四十六年目からは、急がず、あわ
てず、楽しく、何時も笑顔で第二の
青春時代を築いていきたいと思つて
おります。

八月二十一日には、函館で記念会
が盛大に開かれます。再び、福祿会
東京支部軍団は北上します。



第57期だより
松澤 佑介 記

平成10年11月1日(日)午後4時
30分

快晴の東京湾上に浮かぶシンフォ
ニー2のクルージングデイナーで、第
57期同期会が華やかに開催された。
遠く札幌、大阪からも駆けつけた仲
間を含め総数75名であつた。幹事長
の水江晋一君の開会挨拶に続き、今
まで出席する機会が無かつた人達を
中心にスピーチが続ぎ宴を盛り上げ
た。折から中秋の名月も我々の同期
会を祝福するが如く輝き、お台場、
レインボーブリッジ等々美しい景観
を存分に披露してくれた。海、港、
船、これらはまさしくわが故郷と重
複し、郷愁の念を抱いたのは私一人
では無かつたようだ。

次回は大沼公園で開催すること
を決議し、2時間にわたる同期会は
無事終裏した。2次会は銀座で行わ



会員短信

ひとこと

メッセージ

(平成十年九月以降)

恩師 萩原 獅郎

東京白楊だより有難く拝見しました。白楊ヶ丘同窓会東京支部大会のご案内を頂き、是非出席したいのですが、当日あいにくやむを得ぬ要用があつて出席できません。皆様のご健祥とご盛會を祈ります。

渡邊 忠雄(19期・大6年卒)

数年前から車椅子生活となりました。この9月満100才になりましたが、函館中学時代の渡辺紳一郎君との交友や、当時生まれて初めて鰻を食べ、その旨さが生涯の鰻好きの元になったことなど懐かしく想い出されます。(代筆)

渡辺 春吉(28期・大15年卒)

夫春吉は去る平成9年11月9日89才にて永眠いたしましたので、お知らせいたします。(奥様)

穀田 俊一(29期・昭2年卒)

いつもご案内頂き誠に有難うございます。会報はいつも代読(本人88才で視力不十分のため)としてお祈りしております。(奥様)

窪田 亮明(29期・昭2年卒)

88才、健康にめぐまれ、元気に過しております。

本多 政雄(30期・昭3年卒)

長い間お世話になりました。主人こと、1月はじめ入院し、2・3回入院退院を繰り返しましたが、6月26日に亡くなりましたことをお知らせ致します。(奥様)

荒川 正夫(31期・昭4年卒) 入院中につき欠席させていただきます。

佐々 博(31期・昭4年卒)

この度は大会に御案内頂きましたが、6月16日急性心筋梗塞で死亡いたしましたので、残念ですが欠席いたします。皆様によるしくお願いたします。(奥様)

福島 直孝(31期・昭4年卒)

前略 父福島直孝は去る4月11日死亡いたしましたのでお知らせいたします。草々(ご子息)

中小田 栄一(32期・昭5年卒)

老令による歩行困難

廣井 久之輔(33期・昭6年卒)

一昨年から築地のがんセンターに入院、目下通院中という所更に年齢も86才と高令になり、ものの役に立たず誠に申し訳ありません。会の御活躍を切に願います。

吉田 亮之助(33期・昭6年卒)

お便り有難う存じます。吉田は左半身不随、脳梗塞のため出席は残念でございますが出来るまま18年の長い間病身のため車椅子の生活です。何分よろしく。

能登谷 富雄(33期・昭6年卒)

本日大会の御通知、ホフラ便りなど有難く拝受いたしました。小生参加致したいのは山々ですが、数年前脳梗塞による歩行障害のため快復十分ならず、誠に残念乍ら欠席させていただきます。御盛會と皆様の御多幸とを祈り上げます。尚小生への御用おありの節は御一報下さい。

田熊 国太郎(33期・昭6年卒)

老齢に付欠席、御諒承願上げます。又御手数数の程を心から感謝申し上げます。

村上 環(33期・昭6年卒)

本人死亡(3月24日)。村上政枝 丹治 敏衛(33期・昭6年卒) 私のこと言つて病気もなく平常に暮らしていますが、何分高齢で一人では遠出は無理ですので、申しわけなく残念ですが欠席をお許し

願います。ご盛會と皆々様のご多幸をお祈り申し上げます。

徳田 肇(34期・昭7年卒)

旅行中につき残念乍ら出席できません。宜しく。

岡崎 弘(35期・昭8年卒)

同窓会のご案内をいただき有難うございました。小生体調を崩し通院中ですので欠席します。貴會のご盛況と會員皆様のご健勝をお祈りします。

濱田 榛名(35期・昭8年卒)

昨年度より入院の繰り返しで現在も通院加療中ですので悪しからず。同窓会の発展をお祈り申し上げます。

藪越 甲平(35期・昭8年卒)

同窓会も若い人が多くなつて、老人の出席は少なくなつてきたが、ある会社の社友会は、60才以下と60才以上の2回に分けてるが、これも一つの手法が、尤も費用・会場その他でムリな話だが。

三国 栄徳(36期・昭9年卒)

八十路をこえること3段目を迎えたが、神経麻痺障害で歩行困難会合に出席不能状態。函中野球部時代を回想し、専らJリーグのテレビ観戦で悦に耽つている。支部の隆盛と會員の御健勝と御活躍を祈る。

楢田 和彦(39期・昭12年卒)

毎回欠席で恐縮しております。まだ現役で元気に働いております。次回の函中の記念祭には是非函館を訪れたいと思っております。函館は私にとって何と言つても第二の故郷です。

今井 清(40期・昭13年卒)

東京白楊だより第21号楽しく拝見しております。

安富 隼平(42期・昭15年卒)

六月中旬函館から江差まで、各駅停車で車窓から新緑の美しさを楽しんで来ました。この時期、はまなすは満開です。(元上磯線汽車通学生)

小佐治 朝生(42期・昭15年卒)

昨年、本年と冬期体調をくずしましたので、来年はそうならぬよう気を配っています。

梅崎 絵一(43期・昭16年卒)

古希になつてからハーマニカ教室に入門。何とか練習を重ねた結果、10/24日本ハーマニカ芸術協会(佐秀会)の後援で、ハーマニカ合同発表・演奏会を開催する事になり、函中東京支部大会と重なり、申訳ないが欠席します。

小山 俊介(43期・昭16年卒)

心筋梗塞と喘息で運動機能が低下して来て居りますが、気持はまだまだ。やる事が残っているような気がするの、ワーカーホリツクにもかかっているのか。まことに困つたものです。幹事諸公の御苦勞に深謝。

寺井 章(43期・昭16年卒)

9月、亡父母兄の法事のため函館に車で行き、丸一日を市内見物に当てる。函館山頂の眺望は何時も感動する。大三坂・チャチャ登り周辺の教会群、弥生小学校、ドック、旧棧橋、金森倉庫等末広町で育つたので旧懐を深めた。この不況は北海道全般に大きな打撃を与えているが、函館の街も観光のみでは苦境にあるのは明瞭で、帰路立寄つた青森に比べても見劣りがしたのは残念だった。

有田 正也(43期・昭16年卒)

私の所には東京支部の他、函館支部、札幌支部より夫々會費の請求があります。全部納入しております。

油野 義明(44期・昭17年卒)

元氣でのんびり過しております。高倉 隆(44期・昭17年卒) いつも御無沙汰致し失礼の段、平にお許し下さい。尚御連絡、御案内下さいまして厚く御礼申し上げます。小生お陰様で元氣に過しております。会の一層の発展を祈念しております。

三国 文夫(48期・昭20年卒)

幹事諸兄の活躍に感謝。今後と

もよろしくお願致します。

手塚 泰彦(52期・昭25年卒)

お招きありがとうございました。あいに今年も貴支部の大会と関西支部の大会の日が重なつてしまいました(日程を変更しようとしたのですが、会場が確保できず残念です)。(関西支部長)

菊池 紀史(52期・昭25年卒)

昨年退官し無職となりました。健康・趣味をかね野外調査に出歩いています。

太田 輝夫(52期・昭25年卒)

事務局長の皆さん、ほんとにご苦勞様!

神尾 博子(53期・昭26年卒)

いつもお世話になつて居ります。近く秋田へ帰つて居りましたので失礼致しました。よろしくお願いたします。

佐藤 聖一(54期・昭27年卒)

元氣にやっております。8月末から9月にかけてアメリカの医療関係の調査でニューヨーク、ワシントン、ロス、シスコをまわつてきました。年齢のせいか時差ボケの回復が遅くなつたようだ。

吉田 精吾(57期・昭30年卒)

還暦も過ぎ、第2の人生を楽しむべく、わが同期会も毎年一回の全国レベルの集まりをスタートさせたほか、好きな仲間と毎月1回(第3土曜日)囲碁会や年2回のゴルフ会など新しい生き甲斐を見つけています。よろしくつたら新しく仲間に加わりませんか。

伊藤 寛(57期・昭30年卒)

Uターンして満1年4カ月になりました。自然を満喫しております。皆様宜しくお伝え下さい。

松川 澄子(57期・昭30年卒)

いつもお世話様です。よろしくお願いたします。

小竹 嘉子(57期・昭30年卒)

東京白楊だよりはたのしみに拝見しております。幹事の方々に御礼申し上げます。毎回出席出来ず残念ですが盛會を祈ります。

唐沢フミ子(58期・昭31年卒) 事務局の皆様いつもほんとうにご苦労さまです。皆様の御健勝をお祈り致します。

岸本 文子(59期・昭32年卒) いつも大変ありがとうございませす。お手数をおかけ致します。

上平 慶一(60期・昭33年卒) 幹事の皆様以外でも遊びにいらっしやいませんか。

岩崎 英子(60期・昭33年卒) 1年に1度の払い込みは気持ち次第で面倒な事はありません。

栃澤 森一(60期・昭33年卒) 定年を間近にひかえ、退職後はあれもこれもやろうと張切っています。この意欲を失わないよう頑張りませす。

伊藤 紀子(60期・昭33年卒) 東京白楊だより楽しく読んでおります。卒業して40年、この辺で肩の力を抜いてのんびり、ゆっくり余白の人生を歩んでいけたらいいなと考えています。

佐野 頼(61期・昭34年卒) お忙しいなかいつも同窓会の御連絡ありがとうございませす。白楊だよりもなつかしく、同期の方はどうしているかしらと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

伊東 紀保(61期・昭34年卒) Eメール(会社) itou@disk-dai-ichi-life.co.jp

鎌形 寛子(62期・昭35年卒) 会報等楽しみみしております。今後共よろしくお願ひします。

島田 栄(63期・昭36年卒) 会報ありがとうございませす。毎回家しみに時間をかけて読んでおります。各分野で活躍の同窓の方々を誇りに思えてうれしです。

村本 長穂(65期・昭38年卒) 元気にやっています。皆様よろしく。

木村 司(66期・昭39年卒) 平成11年度より関西支部に入会

いたしますのでよろしく手続きをお願い申し上げます。

上原 勝雄(66期・昭39年卒) 「東京白楊だより」ありがとうございませす。せつかく御案内をいただいで、出席出来ず申し訳ございませせん。

大鎌邦雄・伯子(66期・昭39年卒) 昨年4月より仙台に転居。東北大学に勤務いたしております。

菊地憲一・信子(66期・昭39年卒) 豊田市に住んで30年を迎えようとしております。18年間通した函館が懐かしい今日この頃です。

網川祥夫・善子(66期・昭39年卒) 同期会でもありましたら出席したいと思っております。

成田 明弘(66期・昭39年卒) 出張の為、参加出来ませせん。

今井 明(68期・昭41年卒) 宮城支部に入会しております。

東京支部ますますの御発展を... 齊藤 裕子(69期・昭42年卒) 五十路も御苦労様です。今年から

生活の為、今迄遠ざかった会にも足を運びたいと思っております。

園 蘭美(69期・昭42年卒) いつも白楊だよりありがとうございませす。会費納入の際郵便振替用紙の通信欄に書いたひとことを

短信コーナーに載せてくださったようです。いつ何と書いたのか

忘れましたが、親友の佐野洋子さんと併記され、お互い都合で出席できない友同士、紙上交流から

よいとコールになり、秋の夜長話に花が咲きました。

坂垣 裕則(70期・昭43年卒) 関西勤務中です。同窓会関西支部の幹事にコンタクトしていただきませす。

片岡 進(71期・昭44年卒) 第71期の仲間が、13日の金曜日

ですが、11年は1回だけでちよつと寂しい気持です。71期のみならず13日の金曜日予定を空けておくよう心掛けてください。

佐藤 昭治(71期・昭44年卒) 今回が初参加です。ずっと豪州に住んでおりましたので、同窓会

など無縁でした。楽しみです。

笠原 文雄(71期・昭44年卒) 東京白楊だより楽しく読みませす。来年も送って下さい。

井上 和博(71期・昭44年卒) 97年某月、函館中部高校が朝日新聞社主催のホームページコンテ

ストの高校部門にて、優秀賞を取ったとの記事を見つけた。早速、ホームページにアクセスして、

30年振りで校歌を聞き、又、お世話になった先生方の消息をもちることが出来ませす。

ある時、ゲストコーナーにオーストラリアより同期の佐藤昭治君

からの投稿記事を見つけ、メールのやり取りが始まり、やがて東京

で5、7名のご同輩が半年毎に集まるようになりませす。

又、この7月24日には、「三金の会」と連絡を取り合った結果、

水江先生を始め、同期25名が「50の瞳」として東京全日空ホテルに

集うことが出来ました。ひとえにホームページのおかげです。HP

開設に御尽力の皆様にも多謝。五十嵐信博(73期・昭46年卒)

いつもいつもお世話様です。手塚真智子(74期・昭47年卒)

本年こそは皆様のお顔を拝見したいと思ひます。清水 真(82期・昭55年卒)

高橋 令恵(101期・平11年卒) 去る四月二十三日、函中出身の私のおじが同窓会の理事をして

るので、白楊ヶ丘同窓会東京支部の評議員会に連れていってもら

ました。始めは、決算報告等で白熱した議論がかわされ、活動に

対する真剣な取り組みを強く感じました。その後は、食事を楽し

ながら和やかな雰囲気の中、共通の思

ひが理解が得られた。その後、七時十五分からは希望者二十八名による会食懇親

会に移り、上は40期から下は101期までの年齢の差を越えた、和

やかな活発な意見交換と親睦の場となつた。

その中で、繰越金を同期会を開催する期への補助金として利

用しては...?とのアイデアが生まれ、理事・評議員たちの賛

同を受けた。同期会への補助金については、来年度実施の方向で審議して

いく予定となつた。まだ出席したことのない評議員の皆さん、是非一度出席

してみたい。同窓会から出されるパワは、きつと温かなぬくも

り、明日への活力を与えてくれるはずだ。副支部長(総務担当) 梅田やよい(69期)記

評議員会報告

平成十一年度の評議員会が、今年度は理事会も兼ねて、四月二十三日、飯田橋のインテリジェントロビー・ルコで、三十一名出席のもと行われた。

午後六時三十分、二上支部長の挨拶のあと、真船副支部長から、平成十年度の収支決算報告があり、田沼監事の監査報告を受けて、承認された。

続いて、平成十一年度の事業計画について菅原副支部長より説明があり、予算案については、真船副支部長が会員名簿作成の説明等をし、双方共、原案どおり承認された。

尚、決算報告の際に、毎年算出される多額の繰越金の有効利用に關して、一評議員より意見が出され、議論が白熱した場面もあつたが、出席した評議員から

平成10年度東京支部 会計決算書

収入の部	
前年度繰越金	¥7,196,771
総会費(147名)減	¥1,176,000
年会費(909名)増	¥2,734,000
利息収入	¥55,000
雑収入	¥78,000
計	¥11,239,771

支出の部	
総会関連費	¥1,148,569
会報関連費	¥931,951
事務費	¥637,288
会議費	¥177,700
その他	¥726,720
次年度繰越	¥7,617,543
計	¥11,239,771

札幌支部総会および懇親会

札幌支部第19回定期総会および懇親会は、平成11年6月18日札幌サンプラザで約百人が参集して開催された。

高島支部長が議長となつた総会が滞りなく終り、51期の政治評論家早坂茂三氏の講演「政界よもやま話」が満場を沸かせた後、41期工藤欣弥氏の乾杯の発声で懇親会に移った。妻たけなわとなつたところで各テニール単位のクイズ団体戦が始まった。「男子生徒と女子生徒とどちらが多いか」等母校に関する10問に対し、正解数に応じ健康グッズ等の賞品が出るというもので、会はいやが上にも盛り上がり、最後に校歌を斉唱して散会した。

理事(事務局総務担当)・三国比左男(51期)記

函館東高青雲同窓会に出席して

平成11年5月29日関東地区青雲同窓会が東京新宿の京王プラザホテルで開催された。つつじヶ丘同窓会(函館西高)と我がポプラヶ丘同窓会にもご案内をいただき、二上支部長、梅田副支部長と私が出席させていただきました。

関東地区青雲同窓会は今年で15回を数え、百名を超える会員が参加し盛大に行われた。

毎年持ち回りで当年満50歳になる期が幹事の任に当たっているとのことで、今年は昭和47年卒の東高17期の皆さんが各種趣向を凝らしその運営に当たっておられた。

和やかな中でオークション、くじ引き等が行われたほか、アトラクションとしてシャンソン歌手の八木こうごさん(東高26期)が得意のシャンソンを披露した。彼女は訳詩をしながら、都内のライブハウスで歌い、函館にもお店(大門 Bistr03)を持つていたとのこと。元町の大三坂はシャンソンが似合うかもしれない。

また、懇談会のなかでお会いした川俣 洋氏は国際ボランティア活動をされており、21世紀日本モンゴル協会市川支部長として、発展途上国への物資支援活動をされていることを熱く語っておられた。青雲の心意気は遠くモンゴルへも至るといふところか…。

紺地に白の校章を染め抜いた青雲の旗はまた来年の再会を期して高く掲げられていた。

副支部長(大会担当)・木戸正文(68期)記

★白楊ヶ丘同窓会東京支部ゴルフ会「第十一回・第十二回ポプラ会」 ★三校対抗ゴルフ会「第三回「函館巴会」」

ゴルフを通じて、会員相互の交流を目的とする白楊ヶ丘同窓会東京支部の親睦コンベン「ポプラ会」は、今年度は第十一回と第十二回が行われた。

第十一回は、平成十年十一月九日、東京都のG M G八王子ゴルフ場で、十五人が参加して行われた。

当日は、多少風が冷たかったもののまずまずの好コンディションのもと、熱戦が展開された。その結果、参加者中二番目に若い第70期の古川純一氏が初優勝。ベスゲロ

は、男性が65期・吉野正之氏が82、女性は59期・伊藤征子さんが97で獲得した。平日開催で参加者が少なかったものの、和やかな雰囲気



の中で終日楽しいプレーが続ぎ、またプレー後のパーティーも大いに盛り上がった。

第十二回は、平成十一年五月十三日、埼玉県の浦和ゴルフ倶楽部で、十八人が参加して行われた。

この日は、最高気温が二七、二八度。函館なら真夏にも匹敵するような好天。しかし、湿度はあまり

高くはなく絶好のコンディションに恵まれた。ポプラ会では、これまでダブルペリヤ方式でハンディキャップを算出して順位をつけて

いたが、今回から過去四回以上参加されたメンバーはハンディを決め、基準に満たないメンバーは当日のハンデで順位を競うことにした。

その結果、優勝は、第60期・長正太郎氏。準優勝は、函館から参加された54期・坊吉太郎氏が83のベスゲロで受賞した。なお、坊氏は、函中野球部のOB会の会長

をされているが、昨年の野球部創部百年を記念して作られたサインボールを賞品として提供され、これは二上支部長が受賞された。

ポプラ会には、二上支部長より優勝者に将棋の棋士が対局中に使用する扇子に支部長ご自身が揮毫した「二上賞」を提供していただ

いているが、両コンベンとも優勝者に扇子が贈られた。

一方、平成九年より、函館西高校と東高校の両校の同窓会関東支部と、ゴルフを通じた親睦を目的



に「函館巴会」が行われているが、第三回コンベンが、平成十一年四月八日、東京都の桜ヶ丘カントリークラブで開催され、西高七人、東高十一人、中部高十人の計二十八人が参加した。成績は、中部高の松田栄美子さん(60期)が個人優勝。団体も中部高が二年連続優勝。

次回、第十三回ポプラ会コンベは、十一月十六日(火)浦和ゴルフクラブ・八時四十分スタート(八組)に決定。案内状をご希望の方は、FAXにて、住所、氏名・卒業期を左記までご連絡下さい。

副支部長(総務担当)
菅原大作(65期)記

ポプラ会申込み先
FAX: 〇三 三四四 六八五四
63期・小林嘉則 宛

第23回親睦大会

10月22日(金)、九段会館で

講演「花と出会って人と出会う」 安藤 牧子さん

講演会 午後5時～6時 懇親会 午後6時～

●講演者プロフィール●

講演のテーマ

「花と出会って人と出会う」
早いもので植物画を描くようになって10年になりました。この間、植物や絵を通じて、さまざまな方との出会いがありました。時に、暖かく励まして下さったり、専門的なご助言をいただいたり、たくさんの方々にお世話になりました。今、「花と出会って人と出会う」そんな気がしております。

安藤 旧姓・笹田 牧子さん略歴

一九四八年・函館生まれ。一九六七年・中部高校を卒業(第69期)。北海道石狩市在住。夫と2人の息子との4人家族。一九九〇年・朝日カルチャー教室で3年間、植物画家、清水晶子先生、早川尚先生に師事。一九九三年・国立科学博物館主催第9回植物画コンクールにおいて文部大臣賞受賞。作品ヤマゴボウ。一九九四年・同コンクールで佳作受賞。作品ハナス。石狩町芸術文化功績賞受賞。一九九六年・植物画集、石狩



カタクリとエゾエンゴサク

花紀行(第一集)花たちの肖像(第一集)のポストカードを発行。市立函館博物館で作品展示。一九九九年・植物画集、石狩花紀行(第二集)花たちの肖像(第二集)のポストカードを発行。札幌と東京で、個展を計3回開催。現在、日本植物画倶楽部会員、北海道植物画協会会員、さっぽろ植物画同好会会員。

九段会館 ご案内



場所 九段会館

千代田区九段南1-6-5

会場の電話番号は03(3261)5521

[当日のみに限ります]

- ・東西線「九段下」《4番口》から徒歩1分
- ・新宿線「九段下」《4番口》から徒歩1分
- ・半蔵門線「九段下」《4番口》から徒歩1分

函館情報

：函館市東京事務所：

事務所は、紀尾井町プリンス通り文芸春秋の並びで麹町会館の向かいにあり、中央官庁や関係団体との連絡調整、企業誘致、ＵＴＡＩ相談、観光案内、市政に関する情報収集などの業務を行っています。スタッフは所長以下四名です。お気軽にお立ち寄り下さい。

所長 菊池 康三

東京都千代田区紀尾井町3-29

紀尾井町山本第2ビル2階

電話：〇三 三三六一 〇〇七二

FAX：〇三 三三六一 〇三三九

：函館市の近況：

・四月の統一地方選挙で井上 博前助役が大正十一年八月一日市政施行以来第二十三代目の市長となりました。

・人口は、平成元年三十一万一千人でしたが、平成十一年六月末で

は二九万一千人と十年間で約二万人減少しております。

・景気動向は、北海道拓殖銀行の倒産の影響が尾を引き、いまだ不況から脱し得ない感があります。

しかし、基幹産業の観光では、冬期間も順調で、入り込み客数が平成十年度では、五三九万人と記録を更新中です。

・都市施設では、函館空港の滑走路が三〇〇mに延長され、四月から大型機の通年安定運行が可能になりました。

・六月には、千代台町の陸上競技場が全天候型に変わりました。

・七月には、函館初の本格的なオートキャンプ場が、市の東部地区の白石町にオープンし、利用申込が殺到しているようです。

・来年四月に開校を予定している「公立はこだて未来大学」(システム情報科学部複維系科学科と情報アーキテクチャー科)や「市立函館病院」の工事も順調に進んでおります。

東京白楊だより 22号

●発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部

●発行人 二上 達也(52期)

●編集責任 小林 嘉則(63期)

●発行日 平成11年9月1日

【東京事務所】

〒1600022

東京都新宿区新宿

1-13-8-302

TEL:03-3352-6281

FAX:03-3341-5048